

前述の波止場食堂のおじさんにタコとりの話を聞いた私は、「絶対行くぞ!!」と心に決め、夜のタコとりに備え、夕食後の楽しい語りにはずーと泡盛に見せかけて氷水を飲んでガマンしていたのであった。

そして、10時半頃「タコとり見に行くから懐中電灯を貸して」と言った途端、ひろみさんとかわバクくんから矢のように非難のユトバが浴びせられた。「夜の海は、何がわかるかわからない、怖いんやぞー」「ガンガゼふんだり、クツが懐中電灯の光にとびこんできたらどうすんや」「だいたい上原の港のそのへんとか言うけど、どこぞ。メチャ広い範囲やぞえ。おぼちゃん見つけられんかったらどうすんや」等々……
激しい叱責が続くのであった。あれ〜。

食堂のおじさんの話（そのへんで20~30人がとってる。番速くても岸から50mくらいとろへん。だいたい10mくらいとこでとってる。）とだいたいちがうやんか……

この二人の激しい攻撃に、私はタジタジとより……。 「それで行くなら、どうして……？」
二人、声を合せて「そうや!!」 「わかったよ……」 あきらめた私は、ヤケクソで

氷水をあおるのであった。

↓ 波止場食堂のおじさんに話聞いた時から内心「絶対行くぞ!!」と決めていた。

そして1時間ほどたった頃…… 佐藤ちゃんが「パパ」しながらすり寄り、お得意のズボンをはき「タコとり見に行かへんの〜？」とせまってくる。思えば「私もパパ」ばかり。「行か〜」と言っていたのであった。

その後、ひろみさんに「絶対海には入らん。堤防で見ただけ。」と固く約束し、二人はこそこそとマリンブーツを手に持ち、「海に入らんのかやたら、いらんやぞ。」の声には、「いや、あの……堤防はすべりやすいから……」とか何とかゴニョゴニョとつぶやきながら、そそくさと車に乗ったのであった。

あ、あやしい……。その後7時からたまたま福ちゃんが「お目付け役」としてついてきていた……

さて、AM12:00 上原の港についた3人は、さっそく懐中電灯を持った2人のおぼちゃんを見付け、おともつけたのであった。港の堤防下は、水がひいて、砂浜になっている。ところが、おぼちゃんはずうずうと海に入っていく。たちまち引き離されてしまった。

私と佐藤ちゃんは、ズボンをたくし上げ、必死におぼちゃんを追う。ずうずう……

岸から福ちゃんの「おーい。海には入らん方がええぞー。」の声に「入らなはー」と答えて、海中とこそこそと移動していく二人。

福ちゃんは、あきらめて、二人を見捨てる。帰ってしまったのであった。

どうも知らない二人は、あとから来た兄ちゃん4人(完全に釣りのつなぎ"長ぐつ"装備で身と
ほめ、ナゾの青い光を付けている。)に追い越されたりしながら、果敢にタコをさがすの2
あった。20~40cmくらいの海中の砂に、海藻にまじったところどころ岩やサンゴがあり、
その穴が限りなくあやしいのだが、海水がユラユラと揺れ、懐中電灯の光ではわからない。
何か白いものがいるような、いないような...

手をつたお勇氣もなく「せめて棒でも持ってきたらよ...」と悔やむのであった。
そうこうするうち、多数のウニを発見。
棒は棒ももてこい。⑤

岩のカケにいろのはしいのだが、砂の上にまで出てきたのを見、他の人々と遠く離れ
海中にとり残された二人は、次第にびびり始める。ナゾを見れば、「カンガゼ」はなにかの
海藻と見れば「ウニ」はなにか、とおびえる。足のウラにウニがささってたまらない。
泣く泣く二人は引き返すことに決め、途中のナゾやヒトデを付けては、ウツフツを晴らした。
中でも直径50cm、高さ20cmくらいの、もあがたクッションのような形のヒトデ(表
面は、みどり、赤、オレンジのパッチワーク模様)は、あまりに不思議で、あまりにおもしろい
で、足でいたり遊んで"ひっくり返したり"していたら、ウラの色が変わり、「オッ、怒るとい
う感じ"になってきたの"もとにもどし、あやまるおいた佐藤ちゃんであった。

帰りには、ところどころの岩の穴を、未練気にとぎさ込み、エビやカニ、ナゾや小魚を発見
し、「オオッ」と感心し、ねらうカニにライトをあて足でいたり起こしたりしながら、浅い所
を選んで歩く。しかし佐藤ちゃんは、"ま"の戸で「深い〜」と語り、どちらにも
進めず"思わす"岩の上にあがら立ちすくんで"いたのだらた。

そんなこんなで"遊びすぎ"笑いきぎ"ハラの痛くなった二人は、港にもどってきた。ところが
福ちゃんが"どこにもいないのだ"。

二人の脳裏には、まず"酔っ払い"堤防の上でねらう福ちゃんの姿が浮かび、堤防の上と
「福ちゃん」と口ずかすからさがすが、いけない。もしかして、ねらううちに堤防からこ
がり落ちたのか...不安が増大する。おど"チ"ライトの光のように港と懐中電灯の光が走った。
次に浮かんだのは、おぼら"砂浜"ねらううちに潮が満ちてきたおぼら"福ちゃん"
二人は再び砂浜をさがすが、いけない。そして、不幸なことに福ちゃんのサンダルの足あとが
砂浜の途中で消えていたの"あった...

もしかして、歩いてあげほの館にもどっているのか、いや、あの福ちゃんがそんなめんどくさい
ことをするはずがない。こうなったら、あげほの館に戻って、どうさく隊を...と考えた二人が
あげほの館に帰ると、福ちゃん"部屋には、あかあかと"灯りがついていて、ふと人に
ねら"本と読む福ちゃん"窓ガラスに映っていたの"あった... 4P24P2

脱力した二人は、肩を擦り足洗い、夜ふけの自室へと戻っていったのだらた。...
かたし...